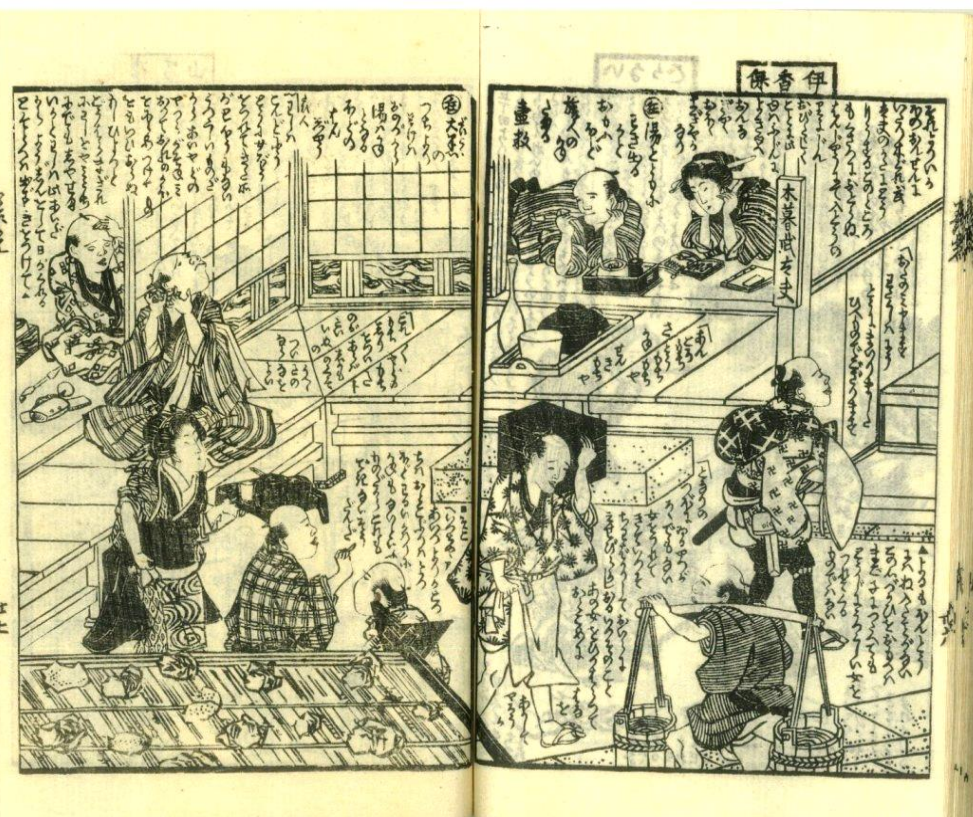
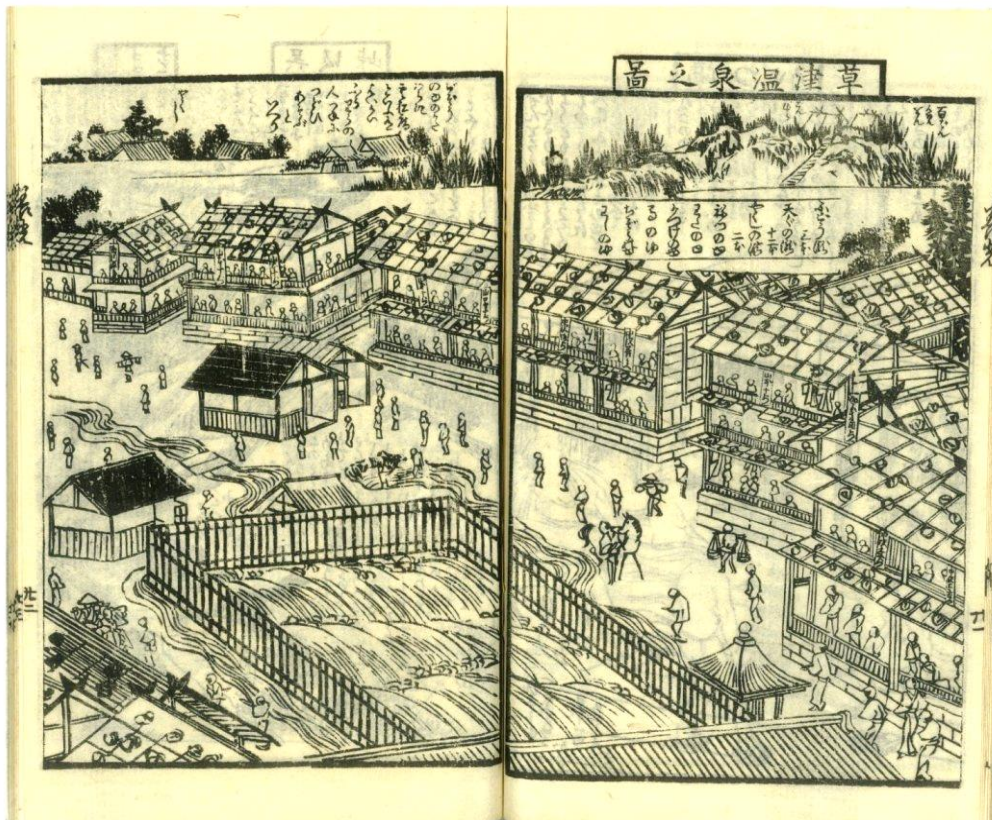




⑤ 諸国道中かねの草鞋 十三
(草津道、十返舎一九編)

(文政3年(1820))

原本：縦18.5cm×横12.7cm

代表作『東海道中膝栗毛』で有名な戯作者、十返舎一九は、庶民の旅が盛んに行われた文化・文政期(1804-30)にベストセラーとなる道中記や旅案内を手がけました。

この作品は、『諸国道中金草鞋』というシリーズものの13冊目です。本作は、善光寺から鳥居峠を越えて田代・大笹(婦恋村)を経由し、草津へ至り、中之条・伊香保・榛名山を経由して高崎に至るまでが描かれています。



前橋市本町 勝山敏子家文書
P8702・No.2366